

# 10月の野菜の見通し

令和元年9月30日現在  
山形県東京事務所

区分 品目	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
	前年実績	平年比 見込	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年 入荷量※ (t)	前年 占有率 (%)	
だいこん	12,365	少ない	13,165	98	87%	96	14	0	中心産地である北海道・青森産は問題なく、平年並みの出荷となるだろう。シーズン序盤となる千葉産は早い播種の部分で台風被害があるが、蒔き直しがあると見込む。北海道産は終盤に差し掛かり減少に向かう時期だが、荷動きは9月から好転する気配がなく、相場展開に大きな波は生じない予想。
はくさい	17,065	多い	15,778	102	78%	88	1	0	長野産の二毛作は生育順調。10月は平年通りの十分な数量を見込む。茨城産は台風の影響はほぼなく、中旬から増量に向かう。
キャベツ	18,240	平年 並み	17,412	87	98%	106	-	-	群馬、茨城産ともに生育順調。千葉産は台風被害により定植を改めて行うため、早期の出荷分に遅れが生じる見込み。
ほうれんそ う	1,232	少ない	1,408	662	88%	598	-	-	茨城産は台風被害があるが、まずまずの数量が出てくる見込み。他県含めた全体量は、少なかった前年を上回るも、大幅な増量には至らず、平年をやや上回る予想。9月中旬までは高値で推移するが、以降10月上旬にかけては下げ相場が続く見込み。
ねぎ	5,322	平年 並み	5,537	410	80%	323	480	9.0%	青森、秋田、北海道産の生育は概ね順調で、平年並みの数量を見込む。例年どおり稲刈りのため、9月下旬から10月始めまでは数量が減り、堅調相場に。中旬からは稲刈り終了にともない増量して相場反転となる見込み。
きゅうり	5,788	平年 並み	5,817	403	87%	354	93	1.6%	埼玉、群馬産が出揃って数量増。上旬は関東産抑制作型の出荷が最盛期となるも、下旬にかけては出方が落ち着き、東北産の切り上がりを迎えることから、相場の上げ気配が強まる見込み。
トマト	5,819	少ない	6,227	485	93%	444	-	-	中心となる千葉、茨城産は台風によるハウス損傷等の被害があり、数量は平年より少ない見込み。青森産は前進出荷気味で残量少なめか。このため9月下旬から10月上旬にかけては相場の上げ気配が強まる。後続の熊本産は8月の長雨の影響あり出方が遅れる予想。

引用資料:「東京都中央卸売市場における野菜の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、「野菜の生育状況及び価格見通し」(農林水産省)、「野菜の入荷・市況見通しについて」(東京青果株)

入荷量について:平年並とは、平年との比率が80%以上、120%未満であることを示す。「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)